

クリニックレター 2025年12月

〒663-8113 西宮市甲子園口 2-8-31 医療法人岐黄会西本クリニック
TEL:0798-65-5111 FAX:0798-65-5115 HP: <http://www.nishimotoclinic.jp/>
このクリニックレターは、西本クリニックから患者様への情報を、すばやく、わかりやすくお伝えするためのお手紙です。原則月1回の発行で、スタッフが皆様に知りたい事をビビッドに発信していきます。

インフルエンザワクチン接種はもうお済みでしょうか？

今年の流行は、驚くほど早く、広く広がっています。当院でのワクチン予約はあと30名様分ほど残り枠がありますので（12月1日現在）、ご希望の方は受付までお申し出ください。

中医学と日本漢方

今回は、上海で行われる予定だった日本中医薬学会学術総会の参加報告を書く予定でしたが、開催予定の1週間前になって学会の会場の使用許可が取り消しになり、学会開催が出来なくなってしまいました。今回、学会の会頭を務める予定だったF先生は、2002年に中国で中医師の資格を獲得してその後一貫して中医学の研究と臨床に取り組んでこられた方です。今回の事はさぞ残念だったとは思いますが、正式な決定が中止ではなく延期になったのは、中国側もF先生の思いを大事にした結果だと思っています。さて、今回は、「漢方と中医学」の違いを中心にお話したいと思います。

中医学：紀元前2-3世紀に書かれた「黃帝内經(コウイエイ イエイ)」や紀元200年代に書かれた「傷寒雜病論(ショウカンザツ ヨウロン)」などを端緒として、その後現在まで連綿と発展を遂げてきた中国伝統医学を中医学と言います（下図①）

漢方医学：中国伝統医学は遣隋使、遣唐使の時代から日本に輸入されており、「医心方(イシポンガ)」という有名な本が平安時代に刊行されています。「漢方」とは文字通り、漢の国(中国)から輸入された医学という意味ですが、国内で漢方医学が広がったのは室町末期から江戸時代にかけてであり、特に17世紀から18世紀にかけて現在の日本の漢方の基礎が作られました。その後、漢方医学は独自の発展をとげたのですが、その過程において中国伝統医学とは異なる概念や用語が生まれ、また、実際の診療スタイルも異なったものになりました。（下図②）

中医師：現代中国で中国伝統医学(中医学)を専門とする医師の事を中医師と呼びます。一方、西洋医学を専門とする医師は西医師と呼ばれます。両者は医師としてのライセンスが異なり、中医師になるには、中医学専門の学校(主に大学)で学ぶ必要があります。

もちろん中医学専門の大学でも西洋医学の勉強はしますが、



その割合は中医学が中心です。(お隣の韓国や台湾も中国と同じシステムです)一方、日本はこれらの国々とは異なり、西洋医学を学んだ医師が漢方診療もおこないますが、日本国内での漢方医学教育はまだまだ不十分な状態ではあります。また、日本国内にも、医師以外の方で中医師の資格を持つ方がおられますか、国内で医師として活動することは許されていません。

日本の漢方の現状と西本の立場

前ページでも書きましたが、日本の室町末期に、当時の明王朝時代の中国の最先端（当時では）の医学が、田代三喜(1465-1544)や曲直瀬道三(1507-1594)という医師によって輸入されました。（=後世派医学）その後、江戸時代に盛んになった儒学思想の影響を受けて、古医学すなわち傷寒論の医学を「聖書」のように重んじる医学が中心となってきます。（=古方派医学）その後、江戸中期以降は西洋医学（蘭学）の隆盛もあり、明治以降は国内での漢方教育が否定されたため、中国の清王朝時代の中医学は全く日本に入ってこない状況が続き、国内では一部の医師や薬剤師によって江戸期の漢方がそのまま昭和まで受け継がれることとなりました。そして、ようやく1972年の日中国交回復により、モダンな中医学が日本に輸入されるようになり、日本でも中医学を学ぶ医師が少しづつ増えてきました。このような中で、1981年に医師になった私(西本)は1984年に当時の兵庫県立東洋医学研究所に入所して漢方の勉強を始め、1989年には兵庫県からの県費留学生として、中国の天津と北京で本場の中医学を学ぶ機会を得ることができました。このため、私の漢方のベースは中医学と言ってよいと思いますが、同時に、兵庫県立東洋医学研究所は顧問として一貫堂医学（後世派医学の系統）で有名な中島隨象先生をお迎えしていたこともあり、一貫堂医学にも非常にシンパシーを感じています。そして、現在、私は「日本中医薬学会」理事だけでなく、日本漢方の学会である「日本東洋医学会」代議員、「東亞医学協会」理事を務めさせていただいており、「中医学・日本漢方・西洋医学の三者を融合・昇華し未来につなげる」ことが私の従来からのテーマであり立場です。

今回、一政治家の不用意な発言によって日本と中国の有意義な医学交流が挫折したことは本当に残念です。患者さんをよくしたい、という思いは国を問わず医師達に共通したものであり、今回の事で決して未来が閉ざされることはないことを確信しています。

それにしても30年前の当時とは別世界になった上海に行けなくて残念！

今年は10月中旬まで真夏のような気温が続いたと思ったらその後は一気に晩秋の様相になりました。激しい気候の変動に体調を崩された方も多いようです。そんな時には、毎日の食事の際にちょっとした気遣いを！生姜や白葱、山椒などは身体を中からあたためます。今年は「薬膳」が流行語大賞にノミネートされたとか。次号では「薬膳」のお話をしたいと思います。



休診及び診察日変更のお知らせ

12月27日(土)の浅井医師外来を12月6日(土)に変更いたします。

12月28日(日)から1月4日(日)までを休診とさせていただきます。